



但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2012. 3 第28号

但馬国府・国分寺館
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町柿布 808
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



江戸時代の大判・小判／兵庫県立歴史博物館蔵（菅野コレクション）



第5回特別展

銭—お金の日本史—

さまざまな品物やサービスなどに交換できる「お金」の存在は、流通・経済を根底から支えるものとして、私たちの生活に無くてはならないものです。しかし、お金の役割や価値は、貝や石から近年の電子マネーに至るまで、時代によって大きな変化を遂げてきました。

貝や石などのお金は、それぞれ大きさや重さが異なるため、価値が均一でないという欠点がありました。そのため、かさばらず均質で、長く貯蔵しても変化しにくい金属が、お金の素材として用いられるようになったのです。金属で造られたお金は、一般に硬貨または銭貨とよばれ、日本では、飛鳥時代（7世紀）の「富本銭」を皮切りに流通が始まります。その後、朝廷や幕府の経済政策に翻弄されながらも、銭貨は庶民にまで広く普及していくのです。

今回の展覧会では、日本の銭貨の歴史を振り返るとともに、銭貨が政治・経済などに及ぼした影響について考えます。小さなお金に凝縮された為政者の目的を感じていただければ幸いです。

■ 会期 平成24年3月1日（木）～5月8日（火）

■ 展示協力機関・個人（50音順・敬称略）

いずし古代学習館 島根県立古代出雲歴史博物館
東京国立博物館 東京大学経済学部資料室
豊岡市立出土文化財管理センター 奈良文化財研究所
日本・モンゴル民族博物館 兵庫県立歴史博物館
香川雅信 久保田一郎 小池伸彦 鈴木敬二
吉岡佐和子 若杉智宏

● 日本におけるお金の始まり—富本銭—

日本最古の銭貨は、長く和銅元年（708）発行の和同開珎^{わどうかいちん}と考えられてきました。ところが、平成10年（1998）に行われた奈良県明日香村にある飛鳥池遺跡の発掘調査で、富本銭とよぶ銅銭が、7世紀後半に鑄造されていたことが明らかになりました。

『日本書紀』天武天皇12年（683）には、「今より以後、必ず銅銭を用いよ」という詔^{みことり}があり、富本銭がこの「銅銭」と考えられます。東アジアでは中国に次ぐ銭貨の発行であり、富本銭が唐に対抗する国家造りの象徴として発行されたことが分かります。



富本銭（飛鳥池遺跡出土／奈良文化財研究所写真提供）

Topics 飛鳥池遺跡

飛鳥池遺跡は、奈良県明日香村の谷あい^{あいに}に位置する、飛鳥時代の工房跡です。この遺跡では、金・銀・銅・鉄を素材とした金属加工や、ガラス・琥珀^{こはく}を使った玉類の生産、漆芸^{べつこう}、鼈甲細工などの生産が行われていました。また、富本銭の鑄造も確認されるなど、飛鳥池遺跡が古代の最先端技術を集めた巨大な総合工房であったことが分かっています。

飛鳥の中枢部に営まれた飛鳥池遺跡は、相次ぐ寺院や宮都の造営に大きな役割を果たしていたのです。



飛鳥池遺跡の立地（奈良文化財研究所写真提供）

● 貨幣経済の始まり—和同開珎—

和銅元年（708）、朝廷は富本銭に次ぐ銭貨である和同開珎^{わどうかいちん}を発行しました。和同開珎は、字体などによって2種類に大別できます。文字が歪んで不規則な「古和同」には銀銭と銅銭がありますが、文字が直線的に凶案化された「新和同」には銅銭しかないという特徴がみられます。

和同開珎が発行された当初は、貨幣経済が未発達だったので、素材自体に価値のある銀銭が先行して造られました。やがて、銅銭を基本とした中国式の貨幣制度^{ちくばんじょういほう}が定着し、蓄銭叙位法などの流通促進政策が実施されるとともに、和同開珎は銅銭のみが鑄造され、本格的な流通銭貨として普及しました。

和同開珎の銅銭は、その後も半世紀以上造られ続け、現代につながる貨幣経済の基礎となったのです。

Topics ささまざまな和同開珎

和同開珎には、銀銭と銅銭の2種類があるほか、書体も「開」の門構え上部が開かない楷書体^{かいしよたい}のもの（不隸開）と、上部が開く隸書体^{れいしよたい}のもの（隸開）^{れいかい}があることが知られています。不隸開のものが古くて銀銭が多いのに対し、隸開のものは新しく銅銭が主体となります。



古和同・銀銭
（不隸開）



古和同・銅銭
（隸開）



新和同・銅銭
（隸開）

和同開珎（藤原京跡／奈良文化財研究所写真提供）

● 律令制下の流通銭貨 — 皇朝十二銭 — こうちょうじゅうにせん

貨幣経済が発展すると、朝廷は銭貨の価値を高く定め、財政を豊かにしようとした。しかし、朝廷の定めた銭価はたちまち暴落。朝廷は銭価を維持しようとして、価値を高めた新銭の铸造を繰り返しました。しかし、財政安定を達成できなかったばかりか、素材の銅の入手も困難になったため、朝廷の熱意も冷め、天徳2年(958)の乾元大宝を最後に、それまで12回行われた新銭铸造は途絶えました。その後の約200年間は銭貨の発行はなく、米や布などを用いて経済が運営されていました。



皇朝十二銭 (兵庫県立歴史博物館蔵/菅野コレクション)

● 中世の銭貨と社会

平安時代の終わり頃(12世紀)、大陸との貿易が盛んになるとともに、貿易の決済に銭貨が必要となりました。ただし、日本では皇朝十二銭以降、銭貨の铸造を止めていたため、中国(北宋など)からの輸入銭貨を用いるようになったのです。

その輸入量は、中国国内で「銭荒」(銭ききん)とよばれるほど大量でした。例えば、14世紀に日本に向かう途中で沈没した貿易船の中からは、28トン(約800万枚)におよぶ大量の銭貨が見つかるなど、中世に日本に輸入された銭貨は1億枚以上になると推定されます。

しかし、輸出商品の増加により産業が活発になり、必要となる銭貨の量が増えたことに対して、輸入される銭貨の量は、宋の国力低下とともに次第に減っていきました。このため、これまでの銭貨の量では対応できなくなり、安土桃山時代(16世紀)には、より価値の高い金銀製の銭貨が主役となり、銅製の銭貨は少額取引のみに用いられるようになりました。

Topics 大量出土銭の謎

室町時代から戦国時代にかけて、大量の銭貨を埋める行為が流行しました。これまでに日本全国から約300例、400万枚以上の銭貨が出土しています。これは、呪術的な埋納物(埋納銭)であるという説と、財産の保全のためのもの(備蓄銭)であるという2つの説があります。近年の研究では、明らかに呪術的な意味合いをもつ出土銭は少なく、大半は備蓄目的で埋められたと考えられています。



備蓄銭と甕 (マガ谷遺跡出土)



マガ谷遺跡の備蓄銭の一部 (マガ谷遺跡出土・括弧内は初铸年)

近世の社会と銭貨

江戸幕府が成立すると、大判・小判などの金貨や、^{ちょうぎん}丁銀・豆板銀などの銀貨、寛永通宝などの銅貨を併用する三貨制度が成立しました。中国の輸入銭を頼って混乱を重ねてきた日本にも、ようやく統一された貨幣制度が確立したのです。この頃には、「江戸の金遣い、大坂の銀遣い」といわれ、東日本では金貨、西日本では銀貨が主に使用されていました。金貨は、1枚1両という計数貨幣で、1両 = 4分 = 16朱 = 4000文^{もん}という四進法であるのに対し、銀貨は1貫・^{かんもんめ}匁など重さが価値を表す^{ひょうりょう}秤量貨幣で、1貫 = 1000匁という十進法でした。その上、金銀の交換レートは日々変動するため、金銀の交換作業は煩雑極まりないものでした。

江戸時代中期以降、幕府は金貨・銀貨の質を落として銭貨の数量を増やし、財政難を切り抜けようとはしますが、急激な物価上昇をもたらした経済は混乱しました。しかし、その後も江戸時代末期まで、幕府は銭貨の改鑄を繰り返しました。



享保大判金／兵庫県立歴史博物館蔵（菅野コレクション）



^{ぶんろくせきしゅうちやうぎん}
文禄石州丁銀
(島根県立古代出雲歴史博物館写真提供)



^{ぎんじやう}
銀錠（中国で使われた銀のインゴット）
(島根県立古代出雲歴史博物館写真提供)



寛永通宝
(豊岡城跡出土)

お知らせ

■ 記念講演会「飛鳥池遺跡の金属工房と富本銭」

日 時：平成 24 年 3 月 24 日（土）
午後 1 時 30 分～3 時
場 所：日高農村環境改善センター 多目的ホール
(豊岡市日高町国分寺 850)
講 師：小池 伸彦氏
(奈良文化財研究所都城調査部 考古第一研究室長)
定 員：100 名
*聴講は無料。事前申込みも不要です。

■最新情報はホームページもご覧ください。
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

但馬国府・国分寺館 ご利用案内

- 開館時間 午前 9 時～午後 5 時
(入館は午後 4 時 30 分まで)
- 休 館 日 毎週水曜日
(祝日は開館し、翌日休館)
12 月 28 日～1 月 4 日
- 入 館 料 大 人 500 (400) 円
高 校 生 200 (150) 円
小 中 学 生 150 (100) 円
* () は 20 名様以上
* 県内小中学生は無料
* 65 歳以上の方は半額



ホームページ QR コード